歴史を体験する

授業実践の蓄積から、
選りすぐった体験学習を紹介します。

歴史への案内 4

地域の博物館で調べる

羽村市郷土博物館　〒205-0012　東京都羽村市羽 741　入館料：無料
休館日：月曜日／12 月 29 日～1 月 3 日
開館時間：午前 9 時～午後 5 時（野外展示：午前 9 時～午後 4 時）

- 地域にある博物館を訪ねると，歴史を実感したり，深く調べたりすることができます。
- 羽村市郷土博物館を訪ねました。
  玉川上水や羽村取水堰について，具体的に，わかりやすく展示してあります。地域の歴史や，実際に使われていた民具などの展示もあります。たくさんの資料を集めて，保存しています。

玉川上水の流れを示す大きな模型があります。
■羽村の取水堰から，江戸の市中まで，約 40km の水路と地形が一望できます。取水口がなぜ羽村につくられたのか，よくわかりました。

取水堰の実物大の模型です。
■多摩川の本流から玉川上水に，水を分ける取水堰の構造がよくわかります。洪水になっても流されないように工夫したものです。

博物館には学芸員がいます。
■展示パネルを見ながら，詳しく説明してくれました。質問にも答えてくれます。課題に合わせて，どこを調べるか，だれを訪ねるといいかなど，相談にのってくれます。

歴史を体験する　**地域の歴史を歩く**（東京都小平市）

地域の歴史について上手に調べ，発表するために

① どこを歩き，何を見るのか，何を調べるのか，あらかじめチェックしておきましょう。
② 地域の方，博物館の学芸員，説明員に積極的に質問してみましょう。
③ わかったこと，さらに調べてみようと思うことなど，メモしておきましょう。
④ 写真も撮っておきましょう（ただし，写真は許可をえてから撮るようにしましょう）。
⑤ 調べたことを，レポートや地図にまとめ，グループやクラスで発表しましょう。

玉川上水の分水が新田をつくった

大翔さんのグループは，調査・見学したことを地図に書き入れました。

1 水路をたどってみよう

学校の近くを小さな水路が流れています。これはもしかしたら古くからあったものかもしれません。近くに川は流れていません。水は，どこから来て，どこに流れていくのか，たどってみましょう。

さっそく，地域の資料や副読本などで調べ，歩いてみると，やはりそれは江戸時代に引かれた玉川上水につながっていました（鈴木分水）。

写真①

2 水路は街道に沿ってうねうねと

鈴木分水は，街道に沿って，農家の間をうねうねと流れています。用水が2つに別れる地点に稲荷神社がありました。この神社も用水と関係があるようです。

神社にあった説明板を見ると，やはり，稲荷神社は，鈴木分水を通した鈴木利左衛門が，その分水で新しい村（鈴木新田）を開いたときに建てた神社でした。

写真②　写真③

3 新田村の屋敷森と畑

街道に沿った鈴木新田の農家には，今でも鈴木分水が流れ，屋敷森が残り，その裏側に短冊形に畑が広がっていました。農家を訪ねて話を聞いてみましょう。

いくつかの農家は，この分水ができたころ，先祖がここに来た人たちです。分水は，農家の屋敷の中を通っています。水路の水を飲み水などにして，台地の上に新しい畑を開いたのです。

畑の間には，茶やサツマの苗根もつくられています。屋敷森もこの垣根も，強い季節風から屋敷や畑を守る工夫です。畑には，落ち葉からつくった堆肥を入れました。

4 小平ふるさと村

用水と新田について調べるため，小平ふるさと村に行ってみました。この近くにも，分水（野中分水）が流れています。1654 年に羽村（東京都）から江戸まで引かれた玉川上水は，江戸の飲み水だけでなく，途中で何本もの用水路を分け（分水），その水で，武蔵野台地に多くの新しい村が開かれました（新田開発）。

ふるさと村には，そのころの農家や水車も復元されており，稗うどんも食べることができました。うどんは，田んぼがほとんどないこの地域の郷土料理です。

地域の歴史を歩く

用水路を歩き、さまざまな発見をしながら地域の歴史を探ります。

歴史討論学習

『学問のすゝめ』をどう読むか、白熱の討論がくり広げられます。

歴史を体験する　**対話・討論にチャレンジ**
『学問のすゝめ』をどう読むか

1『学問のすゝめ』を読み，要約する

「天は人の上に人を造らず……」という書きだしは，有名です。みなさんも聞いたことがあるかもしれません。福沢諭吉は，生まれつきの身分や家柄によって，人間の価値も職業も決まってしまう，江戸時代のありかたを厳しく批判しました。

『学問のすゝめ』は，明治維新後の 1872 年から各編の出版が始まり，1880 年に全 17 編が一冊の本にまとめられました。この本は，人びとに大きな関心をもって受けとめられました。それは，日本の人口が約 3000 万人であった当時，300 万部以上が売れた大ベストセラーであったことからもわかります。

実は，この「天は人の上に人を造らず，人の下に人を造らず」の続きも興味深い内容です。次の現代語訳をじっくりと読んでみましょう。

福沢諭吉（慶応義塾福澤研究センター）

福沢諭吉『学問のすゝめ』　現代語訳

天は人の上に人をつくらず，人の下に人をつくらないといわれる。（中略）しかし，今，広くこの人間の世を見わたしてみると，賢い人もあれば，愚かな人もある。貧しい人もいて，豊かな人もいる。社会的地位の高い人もいれば，低い人もいる。そのありさまは，雲と泥のような大きな違いがあるように見えるが，それはなぜだろうか。その原因はまったく明らかである。（中略）

賢人と愚人の差は，学んだか学ばなかったかで，できるものなのだ。また，世の中には，難しい仕事も，簡単な仕事もある。その難しい仕事をする人を身分が高い人と名づけ，簡単な仕事をする人を身分が低い人という。

およそ，精神労働や管理職は難しくて，手足を使う肉体労働は簡単だ。だから，学者・医者・政府の役人・大きな商売をする金持ち・たくさんの人を使う大地主などは，身分が高くて貴い人というべきだ。（中略）

人は生まれながらにして貴賤貧富の差はない。ただ努力して学問をつんで，物事をよく知る人は貴人となり金持ちになる。無学なものは，貧乏人となり，下人になるのだ。

『学問のすゝめ』1871 年初版本（玉川大学教育博物館蔵）

2 感じたこと，思ったことをことばにして，対話・討論する

次に，一人ひとりが，この文章をどう読みとったのか，福沢の主張に賛成か，反対か，意見交流・討論をしてみましょう。

(1) 自分の意見をノートに書いてみましょう。最初から「賛成」「反対」という立場が決まらなくてもかまいません。討論には，主張と根拠（理由）を示すことが大切ですが，「もやもや」した思いをことばにすることも大事な作業です。
まず，自分の考えをことばにしてみましょう。

(2) それを，二人組のペア，グループ・班，クラスなどに対して話してみましょう。このとき，相手の意見をよく聞くことが大切です。相手の意見がよくわからないときは，「それってこうどと，たずねあいをするのもいいでしょう。相手の言っていることを

(3) 自分の意見と他の人の意見とのやり取りのなかで，自分の考えが反対に，最初の自分の意見が変わったり，ゆらいだりすることが出会えない大切な「学び」です。ところで，福沢は「人はみな平等」も「不平等や格差が存在するには，それなりの理由がある」という焦点の一つはここにあります。

3 あるクラスの議論から

福沢の主張は，本当にそのとおりだと思う。学ぶことは努力することと同じだ。がんばった人には，それなりの地位と責任がついてくる。やらない人と努力した人が，同じというのは，なっとくがいかない。
（蓮さん）

努力をして勉強ができる人はお金持ちになり，偉くて人間的にも上の人だという決めつけはおかしい。家が貧しかったり，いろいろな事情があって，同じスタートラインに立てない人も大勢いる。それをダメだと決めつけないでほしい。
（颯太さん）

4 問いを深めていくということ，問いを学ぶということ

さて，対話・討論にチャレンジしてみて，どうだったでしょうか。意ろさを味わえたでしょうか。「いろいろな考えを聞いて，かえって混乱してなってしまった」という人もいるかもしれません。これらのプロセスが，ち負かすこと，相手に勝つことが目的ではありません。自分や他の人の「学ぶ」ということは「答え」を丸暗記することではありません。深く，いそさらに「問い」が深まったならば，それをいろいろな手段で，解き福沢の主張と，現実の歴史のながれとを照らし合わせるとどうなるのかこれからも「問い」を学んでいきましょう。「問いを学ぶ」，それを「学

歴史を体験する全７テーマ

- 火と人類の歴史をさぐる
- インターネットで『洛中洛外図屏風』を見る
- 地域の歴史を歩く
- 綿から糸を紡ぐ
- 対話・討論にチャレンジ
- 山本宣治の人物調べ
- 一人ひとりの歴史・家族の歴史